

平成29年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(石井地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

平成29年度 第1回 まちづくり懇談会《石井地区》実施結果報告書

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《石井地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 平成28年6月29日（火）午後6時30分～午後8時
- 2 開催場所 石井地域コミュニティセンター
- 3 参加者数 37人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当副参事，
東市民活動センター所長，道路保全課長，広報広聴課長

5 懇談内容

（1）地域代表あいさつ

石井地区自治会連合会，石井地区まちづくり推進協議会会長

（2）市長あいさつ

（3）地域代表意見

No.	テ ー マ	所管課
1	ペタンクで健康づくりと世代を超えた交流を	スポーツ振興課
2	高齢化社会における交通システム検討と行政の協力について	交通政策課 L R T整備室

（4）自由討議

No.	要 望	所 管 課
1	久部自治会公民館周辺道路の拡幅について	道路管理課 道路保全課
2	水辺の楽校ペタンク場の整備について	公園管理課
3	鬼怒川右岸への公園整備について	公園管理課
4	保育園の安全に関する取組を承認するシステムについて	子ども未来課 保育課

（5）来賓あいさつ

地区居住市議会議員 増渕 一基氏

（6）市長謝辞

■地域代表意見 1 (要旨)

テーマ	ペタンクで健康づくりと世代を超えた交流を
------------	-----------------------------

石井地区におけるペタンクの活動内容と最近発生している課題について説明をさせていただきます、その後、様々な意見やアドバイスがいただければありがたいと思っています。

皆さんは、ペタンクをご存知でしょうか。ペタンクは1910年に南フランスで生まれたボールを使った競技であり、主にヨーロッパを中心に普及している。現在、世界55か国以上で行われている。発祥の地のフランスでは約500万人以上のペタンカーが競技を楽しんでおり、サッカーに次いで盛んなスポーツとして親しまれていると聞いている。

日本ペタンク・ブール連盟(JPBF)事務局に確認したところ、日本では約10万人のペタンカーがペタンクを楽しんでいるそうである。ペタンクは、目標球であるビュットと重さが650~800キログラムの約8センチメートルの金属のボールを使う。

まず、目標球であるビュットをコート内に投げる。その後、金属球のボールをビュットに向かって投げる。続いて相手のチームが同様にビュットに向かってボールを投げる。ゲームの形式は、シングルス、ダブルス、トリプルスがある。石井地区で開催されている大会はほとんどが3人対3人のトリプルスで行っている。各チームの持ちボール数は6球であり、各チームが投げ終わった時点でビュットに一番近いチームのボールが何個あるかを得点として競う競技である。

石井地区で開催されている試合は、11点先取したチームが勝ちという方針で行っている。ただし、決勝戦は国際大会である日本ペタンク・ブール連盟の規定に則り13点先取で行っている。

以上のようにペタンクはボールを投げることが出来れば、誰でも簡単に参加できるスポーツである。用具もビュットと金属製のボールがあれば、また近くに広場があれば、運動が出来る服装で気軽に参加できるスポーツである。

また、ボールを投げ、投げたボールがどこにあるか、次にどこに投げたらいいかを考え、コート内を行ったり来たりして歩き、ボールを拾ったりマークをするなどの繰り返しの動作が骨・関節・筋肉などの衰えを予防する効果があると発表されている。

投球の際の集中力、戦術を考え、時には仲間と相談することが認知症予防になることから、特に高齢者にはとても適したスポーツであると言える。

このようなことから、石井地区では体育協会が早い時期からペタンク大会を開催しており、平成20年には自治会連合会の助成により、各種団体の一つとして石井地区ペタンク協会が設立された。ペタンク協会では、地域外からチームを招待して行う大会等を含め年間8大会の開催・運営を行っており、会員数は188名いる。

また、会員や子ども達に対して、ペタンクのルールやマナー等の研修会や普及活動

等も行っている。

また、高齢者にできるスポーツであれば、子どもたちにも楽しんでもらう事も可能であると考え、石井地域コミュニティセンター主催のふるさと教室・石井小学校 PTA スポーツ大会（平成 21 年、22 年開催）・石井地区ジュニアペタンク大会（平成 23 年から開催）等の大会の開催、サポートをしてきた。

当初、対象は小学生のみだったが、途中から保護者や小学生の兄姉も募り、ファミリーで参加出来るように変えていき、初の試みとして、平成 21 年開催の石井小学校 PTA スポーツ大会では、PTA、児童と地域愛好会の方がチーム編成して参加する大会を開催し、念願の地域と PTA と児童の交流を果たすことが出来た。これらの大会開催等の効果で、最近、地域内のある自治会では、育成会がペタンク愛好会と共催で親子ペタンク大会を企画し、参加者約 100 名と驚くほどの人数で開催することが出来、盛大に且つ世代を超えた交流が出来たそうである。

また、昨年の地区選手権大会（雨天中止）では、成人向けの選手権大会であるにもかかわらず、小学生と親の家族エントリーがあり大変驚いた。

さらに、ジュニア大会では、初めて参加の親子チームが試合を重ねるごとにルール等を習得し、準決勝の試合では協会のサポートを受けることなく、自分たちでゲームを行うまでになっていた。

このようにペタンク大会等を通して健康づくりに少しでも寄与できたこと、地域の人々の交流が図れるようになったことは大変うれしいことではあるが、最近いくつか課題が出てきている。

それは、協会を支え、ペタンクを楽しんでこられた愛好者の方が一層高齢化し、協会を退会せざるを得ない、大会会場まで行くことが出来ず参加出来ない、ということが徐々に増えてきた。協会の会員数も減ってきている。何とか世代交代を行わないと、協会の存続も危ういと危惧している。各単位自治会での新規入会者の発掘とともに、協会としても何らかの手を打たなければならない時期に来ていると感じている。

こうした状況であることから、様々な意見をいただき、こうした問題に対応できるよう私達ペタンク協会、連合自治会と一緒に考えていきたいと思う。

回 答	所管課：スポーツ振興課
------------	--------------------

【市長】

国土交通省と協議をして、市民の皆様が鬼怒川左岸を有効に使えるように平成 19 年度に水辺の楽校を整備した。その際、石井地区の皆様からペタンク会場の要望をいただき、平成 22 年度にペタンクができる広場を整備したところだが、多くの皆様に利用していただき、整備をした目的が達成されたと思っている。石井地区の皆様を中心に大いに活用していただき、本当にありがたいと思っている。

これからもペタンクに熱を入れていただきたいと思う。また、サンクススポーツクラブが陽東で設立されている。こうした場でもペタンクを大いに広めていただくと共に宇都宮市全体でペタンクを広めていけるようにこれから市としても努力していきたい。

先ほどの御意見によると、ペタンクは世代を超え、3世代スポーツとして推奨できるようなものだと思うので、世代間の交流を図ると共に、そうすることで懸念されている競技人口の拡大や若い世代へのペタンクの普及を図ることができると思う。

既に小学校での大会を行っているようなので、是非PTA会長を中心にペタンクを全小学校に広めていけるよう、ペタンク推進の地として頑張ってくださいと共に我々も教育委員会に話をして進めていきたい。

また、市のホームページで開設しているスポーツ情報ウェブサイト「U-SPORTS」(ユー・スポーツ)があるので、ペタンクの大会の情報や協会の活動状況を掲載していただき、皆様に見ていただけるよう工夫をしていただきたいと思います。大会の日程や成績が見ることができるようになると熱も上がってくるのではないかと思います。

また、世代間を越えた仕組づくりにも是非我々も協力をさせていただきたいと思うので、相談いただければ良い結果が生まれてくると思う。

ペタンクだけではなく自治会活動や地区行事など、人が集まらないという地域が増えてきている。中には行事に出ていくきっかけを待っている人もいる。懇親会や飲み会がついているだけで、出席率が上がってきている地区もあるのでそうしたところでも工夫していただければと思う。

■地域代表意見2 (要旨)

テーマ	高齢化社会における交通システム検討と行政の協力について
-----	-----------------------------

昭和55年、宇都宮市は年少人口が10万3千人と全体の25%だったが、去年は3万人減少した。老年人口は昭和55年の約3万人から去年は12万3千人と4倍になり、子供が減り高齢者が増えている現状となっている。石井地区の人口総数は1万5千332人だが、75歳以上の高齢者は1,558人、人口の約10%であり、75歳以上の二人暮らしは105世帯、210人である。

交通網に不便を感じている方々のために去年6月に石井地区公共交通検討委員会を発足した。構成メンバーは当初、各種団体の長を基本メンバーとしたが、議論の深まりと共に地域の課題に精通した方々の意見をいただくため、適宜メンバーを拡充している。

そして、行政からは、宇都宮市役所交通政策課と東市民活動センター担当者に協力いただいております。毎月1回、約1時間半会議を行っている。先行事例地区への視察や意見交換等も行っており、平石地区、清原地区へ視察に伺い、運行までのプロセスにおける反省点や運行開始後の問題点を教えていただいた。また清原地区では実際に乗車をしてそれぞれの所見を持ち帰ったところである。

そして、先ず何をしなければならないのかとメンバーと議論したところ、やはり一

齊アンケートが必要だということになり、どういうところがお困りなのか、皆さんどこに行くのかなどアンケート内容を検討した。「普段の交通手段はどういうことですか?」「地域内で利用する施設はありますか?」「普段の生活で交通に不便や不満がありますか?」などの質問を皆で考えた。

次にアンケートの対象をどうするかということになった。自治会加入者だけに聞くのが一番簡単だが、もしかすると不便を感じている方の多くは自治会非加入世帯なのかもしれないということになり、民生委員の方々の協力で自治会非加入者世帯にもアンケートを配布させていただいた。

そして1月28日にアンケートを配布し、2月28日にアンケートを回収した。回収率は73%であり、各自治会関係者の皆様、民生委員の皆様には大変お世話になった。

アンケートの結果について説明をさせていただく。

まず、「普段どこに行きますか」という質問をした。「商業施設」においては石井地区ではない施設が10位以内に入っている。ベルモール(1位)、ケーヨーデイツー(6位)、ベイシア(7位)、たいらや(8位)、また、イトーヨーカドー、カインズホーム、インターパーク、福田屋、アピタなどの回答もあった。「医療機関」においては地元の病院のほかにも、済生会病院や自治医大などがある。「教育機関」においては石井小学校、石井地域コミュニティセンター、「その他」については平石地区市民センターに行く方が一番多かった。

次に、「通勤時の移動手段」であるが、「車(自分で運転)」が82%である。働く世代であり免許を持っており運転ができるからこういう結果になる。

「買物時の移動手段」は、「車(自分で運転)」が65%、「車(家族等の運転に同乗)」は16.5%である。

「通院時の移動手段」は、「車(自分で運転)」が64.1%であり、「車(家族等の運転に同乗)」が22.4%である。

「小中学生の習い事」は当然「車(家族等の運転に同乗)」が一番多い。「自転車」もあるが親が送っていくというのが一番多い。

「移動全般」について、「車(自分で運転)」が66.6%、「車(家族等の運転に同乗)」が16.6%であり、併せると8割近い。

「年齢別移動手段」について、40代をピークに自分で運転する方が減ってくる。80代では44.1%の方が、家族が運転する車に同乗するようになっている。自分で運転する方は減ってくるのにもかかわらず、「不便を感じている外出目的」の質問に対して、「不便は感じていない」という方が79.7%だった。これだけ、「不便だ、不便だ」という声をあがっているのに矛盾している、おかしいのではないかと、「回答者年齢区分」の結果をみていくと、「20歳未満」が18.1%、「20歳～64歳」が53.6%、「65歳以上」は30%だった。恐らく分母の関係でこのような結果が出たのだろうと推測する。

「運転免許の有無」を見るともっと顕著になる。70歳以上の方で運転免許が無い

方が44.8%である。高齢者の事故が報道されているので運転免許を返納した方も含めてこういう結果になるのだろう。

「外出に不便を感じている事柄」では、「公共交通が少ない」ということが一番多く、以前から言われることであるので皆で改善しなければならないのだが、次に多いのが「家族に負担をかけている」であり、この心の負担の問題は辛いのではないかと思う。

「概ね5年以内の移動の不安」について、全体では「不安がある」は24.1%、「不安はない」は50.2%だが、70歳以上では「不安がある」は55.5%になる。年齢が上がるにしたがって不安を抱えているということである。

「生活交通の必要性」について、「必要ない」と答えた方は、全体の13.9%である。自分で運転できる若い方がアンケートに答えているにもかかわらず、「必要ない」と考えている方は13.9%しかおらず、「必要である」「将来必要である」と回答した方は60.2%であり、「わからない」と答えた人を合わせると8割以上になる。

また、「自治会別生活交通の必要性」の結果から明らかになったことは、国道新4号線の東側の農村部と住宅部とでは、必要性の感じ方の割合に差があるということである。市道123号線付近の自治会では必要性を感じる方が少ない。ここは路線バスがあり、ベルモールなどが近いので自転車で行ける距離だからだろう。また、行きたい施設が石井地区以外にたくさんあるということである。

「地域交通の方法」だが、「定時制方式」というワゴン車や小型バスなどを利用し、停留所を設けて乗車する方式、若しくは「デマンド方式」という電話をかけて予約をして他の利用者と相乗りするタクシーのような方式がある。

「費用負担」については、市の補助を3分の2いただける。そして地域負担は、運賃と協賛金である。先程のデータをお見せして、「あなたのお店に石井地区の住民が行っているので協賛金をいただけませんか」と店舗に協賛金を働きかけていく。先行事例として清原地区では1台運行で年間コスト800万円弱になる。

「地域交通委員会の議論」であるが、抜粋すると4点になる。

1点目は「地域福祉の一環である」ということである。誰しも年を取り、いつかは運転が困難になる。バス停までの距離は高齢者にとっては数百メートルの距離は負担になる。バス停まで250メートルという基準がある。運転ミスによる不幸な事故を撲滅することができる。自動運転ができる車が販売されても皆が購入できるとは限らない。

2点目は「黒字になる可能性は限りなく低い」ということである。先行事例の聞き取りの結果、黒字になる可能性は極めて低い。これは、現在幹線道路を運行中のバスであっても日中の乗車率は低いことから推測できる。個人の考えだが、儲かれば民間企業が参入しているはずであり、儲からないからこそ行政の力を借りて、我々の力で何とか一つの目標を達成していきたいと思う。だから頑張りたいと思う。

3点目は「公平と相互扶助両立」である。住宅部は人口も多く、自治会予算も農村部に比べて多いが、地域内公共交通を必要とする方の多くは農村部に住んでいる方々である。本来、自治会費はその自治会の活動に使われるのが筋だが、相互扶助の考え

のもと「オール石井」として考えていこうではないかというものである。

4点目は「持続可能な地域交通」である。交通に不便・不満を持っている多くの方は高齢者である。先行事例では、当初利用していた方が、更に高齢になり、利用すらできない状態になった時、次世代の利用者がいなかったために利用者減に拍車を掛けた。次世代の利用者の醸成が出来ていなかったのである。

また、高齢者だけに着目したものはいずれ先細りなる。子育て世代や若年層も利用しやすいシステム、例えば習いごとや塾や通学に使えるものにしなければならない。ほかの地区では、放課後児童教室から帰宅にデマンドタクシーを利用した事例があった。現在導入を検討している地区もあるそうである。

「乗る楽しみ、移動する楽しみ」として様々な世代の方が利用しやすい「地域内交通」であれば、車両の中での世代間交流が出来るかもしれない。

そして、行きたい時に行きたい場所へ、家族に遠慮しながら移動を助けてもらうより、自分の力で外出すれば、心の健康のためにもいいと思う。

「地域内交通の効果」であるが、「高齢者の交通不安解消」「交通網の充実による人口増」「不動産の資産価値増」「自治会加入率の向上」「将来社会の財産である子どもたちの健全な成長を助ける」が揚げられる。また、都市部では、初の導入事例になるので、「宇都宮市民」として、他地域への情報提供の義務もあろうかと考える。「オール石井」という話をしたが、今度は「オール宇都宮」の一員として、もし石井地区が成功したら他の地区へこうした方がいいよというアドバイスが出来るし、アドバイスをする義務があると考えている。

「委員会の位置づけ」であるが、本委員会はいくまでも「検討」し「提言」をまとめるのが役目あり、自治会連合会に提言を上程し、最終的に判断いただく。スピード感は必要だが、地域住民の総意としての提言がまとまるよう、「意思決定のプロセス」に多くの方々の知恵、経験、意見、思いを反映させ、より良い提言をしたいと思っている。

これまで支えてくださった世代、現在の私達子育て世代、これから支えていく子供達世代と、社会はリレー競技のようなものと考えている。今、私たちは子供達に走り方「地域の一員としてのあり方」を教えているところである。これは地域の皆さん、先輩方の背中をみて私達が教えられてきたことである。地域の皆さんが笑顔で楽しく齢を重ねることが出来る石井地区にすべく、精一杯頑張っていきたい。

そこで市長への質問だが、JR東口から清原テクノポリスセンターまでLRTの着工をする予定ということであるが、地域内交通が将来LRTと連結することで石井地区の交通の利便性が上がることを期待している。市長の考えを伺いたい。

回 答	所管課： 交通政策課， L R T 整備室
------------	------------------------------

【市長】

LRTを含めた公共交通機関の充実がこれからの少子高齢化社会を救っていくのである。全ての公共交通が必要になる。1つ欠けていてもネットワーク化は図れない。

特に最も身近な地域内交通は地域の方々に本気で考えていただかないと進まないものである。

現在、郊外部13地区のうち12地区で運行している。清原地区では3本目の地域内交通の試験運行がスタートした。1年後には本格運行になると思う。市街地では、石井地区が初めてのケースになる。初めてやるということは本当に苦労があると思うし、最初が上手くいくとほかの地区が我も我もと続くことになるので、行政としても責任を持って一緒に汗をかいていきたい。

そこで地域内交通のLRTのトランジットセンターや停留場への接続であるが、これは大いにやっていただきたいと思う。交通事業者や警察との協議を進めながら宇都宮市全体をどのように結節していくかをこれから考えていきたいと思うが、その中で皆様の要望をふまえて、どのような結節が出来るかを検討していきたい。結節していただき、地域内交通でLRTに乗り換えて清原球場や病院に行ったり、またはJR宇都宮駅に行き、東京や函館に行くという、移動がどこからでも出来るという先例になるので、ぜひ我々も協力をさせていただきたいので、まずは、地域内交通の試験運行が出来ることも含めてお手伝いしていきたい。

■自由討議（要旨）

発言 1 久部自治会公民館周辺道路の拡幅について

久部自治会では木造の公民館が築70年になるので、建て替えをしたいと考えており、資源回収をしながら、資金を貯めている。

公民館の入口に民地があり、その民地の北側に1.6メートルの道、南側に3.5メートルの道があるので、この1.6メートルの道を3.5メートルのほうに付けていただけないかと、道路管理課へお願いをしているのだが、1.6メートルは払い下げていただき、同じ幅で寄附をしていただきたいのことだった。

確かに個人でやる場合はそうしたやり方が原則かもしれないが、自治会では払い下げの費用まではないので、何とかしてもらいたいとお願いしているがなかなか前に進まない。

本日懇談会があるので直接市長へお願いをさせていただいた。

回答 所管課：道路管理課、道路保全課

【市長】

場所を見たが、確かに入口が少し狭く、不便かと思う。ただ、赤道は原則払い下げとなる。法律上決められているので、それを押し曲げることは出来ない。

しかし、それで終わりではなく、拝見させていただいて思ったのだが、市が少し舗装をして、整備をして、出入りがし易くなるようにすることはできると思う。

それをやりながら、別のアイデアがないか考える時間をいただきたい。

まずは、隅の部分を舗装して入りやすいようにしていきたい。

【道路保全課長】

指摘の場所については、入口が狭いということもある。

これは、現地をよく確認しなければならないところではあるが、道路敷きの幅に余裕があるところについては、舗装を広げたりすることができるので、曲り角なので少しでも広がれば出入りがしやすくなるので、現地を再度確認させていただき、もし時間をいただければ立ち会いも含めて現地を確認させていただき、対応していきたい。

発言 1 久部自治会公民館周辺道路の拡幅について（再）

1. 6メートルのほうにはごみが入っているかもしれないので、ごみの撤去費用を差し引いて安く払い下げていただければと思う。

よろしく願います。

発言 2 水辺の楽校ペタンク場の整備について

ペタンクについては、今では水辺の楽校のペタンク場がいっぱいになるほど盛んに行われているのだが、河川敷の上に黒土を敷いただけなので、雨が降るとボールが転がらない。対応策としてダスト舗装という砂がある。

自治会内に石井第一公園がある。そこでペタンクをやっており、雨が降るとぬかるんでしまい、練習ができないので、平成 20 年に公園管理課にお願いをして、平成 22 年にダスト舗装をしていただき、砂を入れると使って行くにつれ、どんどん締まってきて、硬くなる。

水辺の楽校は広いので、相当の予算がかかると思うが、まちづくりと健康づくりを併せて、ぜひ水辺の楽校に砂を敷いていただければありがたい。

回答 所管課：公園管理課

【市長】

2点ほど話をさせていただきたい。

1点目は、国土交通省の所管であるので、河川敷の整備は構築物も含めて、まず国土交通省と協議をしていかないと許可がもらえない。

整備する予算は地元が持たなければならないので、市の予算になる。

その点を一度国土交通省に確認をさせていただきたい。

2点目は、国土交通省に確認をして、整備してよいとなったとしても、すぐには出来ない。

というのも、小野会長の強い熱意により水辺の楽校を整備した。その後、東屋の設置の要望があり、東屋をつくった。

皆様からすると当然のことかもしれないが、ほかの地区との兼ね合いもある。ほかの地区との公平性などを考えると整備の順番などもあるので、そのことも検討させて

いただきたい。

またご連絡するのでよろしく願います。

発言 3 鬼怒川右岸への公園整備について

平成25年度のまちづくり懇談会の際、水辺の楽校は鬼怒川左岸にあるので、鬼怒橋を渡るのが非常に危ないため、右岸への公園整備をお願いしているが、回答は「検討する」ということだった。

つくっていただければ、どこまで管理できるかわからないが、自分の自治会は石井の桜堤の草刈もやったりもしているので、近場に公園をつくっていただきたい。

回答 所管課：公園管理課

【市長】

国土交通省が所管であるため国土交通省にも伝えながら、公園整備について検討してきたが、難しい。理由として、既に多目的広場があることと左岸の水辺の楽校があるためだった。

すぐにとするのは難しい話だと思う。上流も含め、様々な整備上の課題があるので国としても市としてもまずは、河川区域の豪雨時の対応など安心安全のために、更に努めていかなければならないので新しい公園整備は難しいかと思う。地域内交通で水辺の楽校まで送迎できるシステムも盛り込んでいただけると車の運転をしないで水辺の楽校まで行けると思うのでそれも考えていただければと思う。

発言 4 保育園の安全に関する取組を承認するシステムについて

今、子育て世代であり、子どもの安全に関する提案をさせていただく。

娘を保育園に入れる時に、ひとまず、入れたから入れたということが現状である。

ただ、宇都宮市内でも虐待による幼児の死亡であったり、栃木市でもお餅をのどに詰まらせてしまって亡くなってしまったりということがあり、「入っていいよ」と言われた保育園に入ったところであるが、そこが安全かどうかということが親として心配しているところである。

ここからが提案であるが、安全に関する取組がきちんとされているという承認制度のようなものがあると非常に判断しやすいと感じている。

環境に関する取組はISO14001があるが、素晴らしい成果が出ているというものではなく、環境に対して取り組んでいるというのが環境ISOである。

完全に安全であるという承認ではなく、安全に向けて取り組んでいるという承認があると園児を預ける親としては非常に安心できるし、公開されれば、保育園が安全に向けて取り組むインセンティブになるのではないかと思っている。

そうすることで継続的に安全に関する取組が向上していくと思っている。
以上が保育園の安全に関する取組について承認するというシステムについての提案である。

回 答	所管課：子ども未来課，保育課
------------	-----------------------

【市長】

ご指摘の点について、多くの親御さんが心配していることだと思います。

宇都宮市としては、通常の指導監査があるが、それではその時ばかり繕われてしまい、結局は基準を満たしてしまい、安全に行われているということで終わってしまうおそれがあることも踏まえ、国のガイドラインを受けて、前触れなく巡回をするということをはじめた。

当然、抜き打ちのチェックも行っている、そのようにして常に行政が現場に入っていく、緊張感を持ってもらい、安全の基準を高めてもらうということを抜き打ちでやるように始めたところであり、そうしたことを行うとともに、ご指摘いただいたような話、悪いものは公表できると思うが、全てを公表できるかどうかそうしたところまで踏み込めるかどうか、その辺も今後の検討課題としていきたい。

発 言 4	保育園の安全に関する取組を承認するシステムについて について（再）
--------------	--

ランキング付けは厳しいと思うが、例えば、埼玉県ではインターナショナル・セーフ・スクールという国際承認があり、それに取り組んだりしている。そうした事例もあるので、そういう取組は参考になるかと思い、情報提供させていただく。

回 答	所管課：子ども未来課，保育課
------------	-----------------------

後で聞かせていただき、取り組むことができれば取り組ませていただきたいと思います。